

イフェクサーSR カプセル 37.5 mg イフェクサーSR カプセル 75 mg

【この薬は？】

販売名	イフェクサーSR カプセル 37.5 mg EFFEXOR SR CAPSULES 37.5mg	イフェクサーSR カプセル 75 mg EFFEXOR SR CAPSULES 75 mg
一般名	ベンラファキシン塩酸塩 Venlafaxine Hydrochloride	
含有量 (1 カプセル中)	ベンラファキシン塩酸塩 42.43 mg (ベンラファキシンとして 37.5 mg)	ベンラファキシン塩酸塩 84.85 mg (ベンラファキシンとして 75 mg)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、SNRI（セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤）と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、脳内に作用し、脳内の神経伝達をスムーズにし、抑うつ気分や不安を和らげます。
- ・次の病気の人に処方されます。

うつ病・うつ状態

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を減らしたりすると、些細な事でも心配になる、いらいらする、あせりなどの症状があらわれることがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・過去にイフェクサーSR カプセルに含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人
 - ・モノアミン酸化酵素（MAO）阻害剤を使用中、あるいは使用中中止後 2 週間以内の人
 - ・重度の肝機能障害のある人
 - ・重度の腎機能障害のある人または透析中の人
- 次の人は、慎重に使う必要があります。飲み始める前に医師または薬剤師に告げてください。
 - ・軽度から中等度の肝機能障害のある人
 - ・軽度から中等度の腎機能障害のある人
 - ・双極性障害の人
 - ・死にたいと強く思ったり、考えたりしたことがある人
 - ・脳に器質的な障害がある人、または統合失調症の素因のある人
 - ・衝動的な行動を起こしやすい病気を合併している人
 - ・てんかんなどのけいれん性疾患のある人または過去にこれらの疾患と診断されたことがある人
 - ・緑内障の人または眼内圧が高い人
 - ・高血圧の人または心疾患のある人
 - ・QT 延長（心電図の波形の異常）のある人または過去に QT 延長と診断されたことがある人、QT 延長を起こすことが知られている薬を使用中の人、著明な徐脈や低カリウム血症などのある人
 - ・出血の危険性を高める薬剤を使用している人
 - ・出血しやすい人
 - ・前立腺肥大など排尿困難のある人
 - ・小児
 - ・高齢の人
- この薬には併用してはいけない薬[モノアミン酸化酵素（MAO）阻害剤（セレギリン塩酸塩（エフピー））]や併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。
- 24 歳以下で抗うつ剤を使用した場合、死んでしまいたいという気持ちを強めるとい報告があります。また、この薬を使用した場合、とくに 18 歳未満の大うつ病性障害のある人で、死んでしまいたいという気持ちを強めるとい報告があります。24 歳以下でこの薬を使う人は医師と十分に相談してください。
- 7～17 歳の大うつ病性障害のある人がこの薬を飲んだ場合、有効性が確認できなかったとい報告があります。18 歳未満の大うつ病性障害のある人は、医師と十分に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

販売名	イフェクサーSR カプセル 37.5 mg	イフェクサーSR カプセル 75 mg
1 回量	37.5mg から開始し、1 週間後より 1 日 75 mg に増やされます。	
飲む回数	1 日 1 回食後	

- ・年齢、症状に応じて 1 日 225mg を越えない範囲で増減されます。
- ・増量は 1 週間以上の間隔をあけて、75mg ずつ行われます。
- ・肝機能障害のある人は、飲む量と飲む回数が調節されます。

●どのように飲むか？

コップ 1 杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して 2 回分を一度に飲まないでください。気がついた時に、1 回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は 1 回とばして、次の時間に 1 回分を飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

誤って多く飲んだ場合、頻脈（胸がドキドキする）、意識レベルの変化、散瞳（まぶしい）、発作、嘔吐（吐き気）、心電図の変化、心室性頻脈（動悸）、徐脈（脈が遅くなる）、低血圧、横紋筋融解症（筋肉痛、脱力感）、回転性めまい、肝臓壊死、セロトニン症候群（さむけ、汗をかき、発熱、手のふるえ、興奮、不安など）などの症状があらわれる可能性があります。これらの症状があらわれた場合は、すぐに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・うつ病やうつ状態の人は死んでしまいたいと感じることがあります。この薬を飲んでいる間、特に飲みはじめや飲む量を変更した時に、不安感が強くなり死にたいと思うなど症状が悪くなることがあるので、このような症状があらわれた場合は、医師に相談してください。
- ・不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、眠れない、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっとしていることができない、などの症状があらわれることがあります。これらの症状があらわれた場合は、医師に相談してください。この薬との関連性は明らかではありませんが、これらの症状があらわれた人の中には、うつ症状などのもともとある病気の症状が悪化する場や、死んでしまいたいと感じたり、他人に対して危害を加えたりする場合があります。
- ・死にたいという気持ちになる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来すなどの患者さんの行動の変化やうつ症状などのもともとある病気が悪化する危険性について、ご家族の方は医師から十分に理解できるまで説明を受け、患者さんの状態の変化について観察し、変化がみら

れた場合には、医師に連絡してください。また、患者さんご自身も病状に変化があったと感じた場合には、ご家族の方にも伝えるようにしてください。

- ・心拍数増加や血圧上昇があらわれることがあるので、脈拍数や血圧測定が行われることがあります。特に、高血圧または心疾患のある人は、これらの測定が定期的に行なわれます。
- ・眠気、めまいなどの症状があらわれることがあるため、自動車の運転などの危険を伴う機械を操作する時は、十分に注意してください。また、これらの症状を自覚した場合は自動車の運転などの危険を伴う機械を操作しないでください。
- ・この薬は、使用を突然中止した場合に、気分が高ぶる、不安になる、感情が激しくたかぶる、神経過敏になる、意識が乱れる、睡眠障害（眠りが浅いなど）、疲労、ぼんやりする、感覚の異常、めまい、けいれん、頭痛、感冒様症状、耳鳴、思ったとおりに動かない、ふるえる、汗をかく、口の乾き、食欲が減る、下痢、悪心、嘔吐（吐き気）などの症状があらわれることがあるので、医師の指示どおりに使用してください。
- ・血液中のコレステロール値が上昇することがありますので、この薬を長期間飲む場合はコレステロール値が検査されることがあります。
- ・アルコール飲料、セイヨウオトギリソウを含有する食品はこの薬に影響しますので、控えてください。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳中の人は、授乳を避けてください。
- ・他の医師を受診する場合や薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
セロトニン症候群 セロトニンしょうこうぐん	さむけ、汗をかく、発熱、手のふるえ、興奮、不安
悪性症候群 あくせいしょうこうぐん	38℃以上の発熱、ふるえ、意識がうすれる、考えがまとまらない、判断力が低下する、飲み込みにくい、筋肉のこわばり
抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（SIADH） こうりにょうホルモンふてきごうぶんびつしょうこうぐん（エスアイエイディーエイチ）	けいれん、意識の低下、頭痛、吐き気、嘔吐、食欲不振
QT延長 （心電図の波形の異常） キューティーえんちよう	動悸、気を失う
心室頻拍（トルサードポアントを含む） しんしつひんぱく	息切れ、動悸、脈が速くなる、めまい、失神



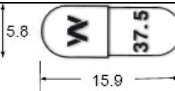
重大な副作用	主な自覚症状
心室細動 しんしつさいどう	めまい、目の前が暗くなる、胸の痛み、胸の不快感、動悸
痙攣 けいれん	けいれん
アナフィラキシー	からだがだるい、ふらつき、意識の低下、考えがまとまらない、ほてり、眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声、息苦しい、息切れ、動悸、じんましん、判断力の低下
中毒性表皮壊死融解症 (TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゆう かいしやう(テン)	からだがだるい、関節の痛み、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ(水疱)、発熱、食欲不振
皮膚粘膜眼症候群(ステイブンス・ジョンソン症候群) ひふねんまくがんしやうこうぐん (ステイブンス・ジョンソンしやうこうぐん)	からだがだるい、高熱、発熱、まぶたや眼の充血、結膜のただれ、ひどい口内炎、唇や口内のただれ、食欲不振、赤い発疹、中央にむくみをともなった赤い斑点、陰部の痛み
多形紅斑 たけいこうはん	関節の痛み、発熱、発疹やみずぶくれができる
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしやう	脱力感、手のしびれ、手足のこわばり、足のしびれ、筋肉の痛み、赤褐色尿
無顆粒球症 むかりゆうきゆうしやう	発熱、のどの痛み
再生不良性貧血 さいせいふりやうせいひんけつ	めまい、鼻血、歯ぐきの出血、階段や坂を上る時の動悸や息切れ、息切れ、動悸、あおあざができる、出血が止まりにくい
汎血球減少症 はんけつきゆうげんしやうしやう	めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきの出血、息切れ、動悸、あおあざができる、出血しやすい
好中球数減少 こうちゆうきゆうすうげんしやう	発熱、のどの痛み
血小板数減少 けっしやうばんすうげんしやう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、皮下出血、出血が止まりにくい
間質性肺疾患 かんしつせいはいしつかん	発熱、から咳、息苦しい、息切れ
高血圧クリーゼ こうけつあつクリーゼ	めまい、頭痛、吐き気
尿閉 にやうへい	尿が出にくい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	からだがだるい、さむけ、38℃以上の発熱、脱力感、発熱、けいれん、ふらつき、汗をかく、ふるえ、関節の痛み、高熱、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ(水疱)
頭部	めまい、意識の低下、頭痛、意識がうすれる、考えがまとまらない、判断力が低下する
顔面	鼻血、ほてり

部位	自覚症状
眼	まぶたや眼の充血、結膜のただれ、眼と口唇のまわりのはれ、眼の前が暗くなる
耳	耳鳴り
口や喉	から咳、歯ぐきの出血、のどの痛み、吐き気、嘔吐、飲み込みにくい、ひどい口内炎、しゃがれ声、唇や口内のただれ、眼と口唇のまわりのはれ
胸部	息切れ、動悸、息苦しい、階段や坂を上る時の動悸や息切れ、吐き気、胸の痛み、胸の不快感
腹部	吐き気、食欲不振
手・足	手のしびれ、手足のこわばり、脈が速くなる、足のしびれ、手のふるえ、関節の痛み
皮膚	あおあざができる、皮下出血、赤い発疹、中央にむくみをともなった赤い斑点、じんましん、発疹やみずぶくれができる、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ(水疱)
筋肉	筋肉の痛み、筋肉のこわばり
尿	赤褐色尿、尿が出にくい
その他	気を失う、判断力の低下、興奮、不安、出血が止まりにくい、出血しやすい、陰部の痛み、失神

【この薬の形は？】

販売名	イフェクサーSR カプセル 37.5 mg	イフェクサーSR カプセル 75 mg
PTP シート	 <p>表面</p>  <p>裏面</p>	 <p>表面</p>  <p>裏面</p>
外形(mm)		
色	キャップ：淡灰色 ボディ：淡紅色	キャップ：淡紅色 ボディ：淡紅色
剤形	硬カプセル	硬カプセル
識別コード	W37.5	W75

【この薬に含まれているのは？】

販売名	イフェクサーSR カプセル 37.5 mg	イフェクサーSR カプセル 75 mg
有効成分	ベンラファキシン塩酸塩	
添加物	結晶セルロース、ヒプロメ ロース、エチルセルロース (カプセル本体) ゼラチン、酸化チタン、三 二酸化鉄、黄色三二酸化 鉄、黒酸化鉄	結晶セルロース、ヒプロメ ロース、エチルセルロース (カプセル本体) ゼラチン、酸化チタン、三 二酸化鉄、黄色三二酸化鉄

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ファイザー株式会社

(<http://www.pfizer.co.jp/pfizer/>)

製品情報センター

患者さん・一般の方：0120-965-485

FAX：03-3379-3053

受付時間：月～金 9時～17時30分

(土日祝祭日を除く)

プロモーション提携：大日本住友製薬株式会社

(<http://www.ds-pharma.co.jp/>)

くすり情報センター

電話番号：0120-885-736

受付時間：9時～17時30分

(土、日、祝日、その他当社の休業日を除く)